

山城地域振興計画(中間案)に対する府民意見の要約と山城広域振興局の考え方

項 目	意見の要旨	局の考え方
〔特筆すべき地域の特性〕 21世紀の京都府経済をリードする成長軸	国土軸と結ぶ道路整備は、まだその途上であるという位置づけにすべきではないか。	御意見を踏まえて、「我が国の国土軸と一層有機的に結ばれ、経済活動上優れた環境が <u>整いつつあり</u> 」との表現に変更します。(変更前：整い)
〔施策の基本方向〕 広域観光の推進	山城地域の広域観光を推進するにあたっては、京都市南部との連携、豊かな森林資源を活用した「森林セラピ-」の取り組み、産業観光として工場等既存の見学対応施設の活用、夜間の観光企画やモデルコースを選定など、幅広く考えていくべきである。	具体的な広域観光振興を進める中で、広域的な連携・推進体制の整備や魅力ある観光コ-ス・イベントに取り組みとともに、ものづくり企業の集積や森林資源も山城地域の特色ある観光資源と捉え、積極的にその活用を検討していきたいと考えます。 なお、御意見を踏まえて、「京都市や奈良市との連携を図るなど、圏域を超えた観光振興にも取り組む」旨、追記します。
環境の保全・整備と環境対策	木津川以東のような山間地を人間に不可欠なものと意識し、魅力ある緑のゾーンとして、環境を保全していくべきである。	山城地域振興計画の中では、田園地帯・丘陵地・山地等で構成される緑豊かな環境や優れた景観については、地域住民や市町村と連携・協働しながら、保全・整備を進めることとしています。
中小企業等の経営革新、ベンチャー-企業の育成	山城地域は、京都・奈良・大阪のベッドタウンとして多数の就労予備軍を抱えており、企業誘致に頼らず、中小企業や地場産業の育成に力を入れるべきである。	雇用の確保を図り、地域の産業振興を進めるにあたっては、既存産業の活性化、企業誘致による活力ある産業の導入、ベンチャー企業創出等による新たな産業の育成の3つを総合的に進めていくことが必要であると考えますが、御意見にある地場産業の育成につきましても、商工会議所・商工会等と連携しながら、その育成に努めてまいります。
地域を担うひとづくり	地域づくりに関わる者でも、立場によって視点が異なり、それらの調整も課題である。そのためにも、ボランティア団体が、形式的ではなく、真に交流・協働できるようなシステムを作るべきである。	山城地域振興計画で目指す「ともに創る活力とやすらぎの山城交流圏」の実現のため、各分野における関係団体やNPO等とのネットワークづくりの推進や、情報交流の拠点づくりの支援等、ボランティア団体の方々による、形式的ではない交流・協働ができるよう、環境整備に努めてまいりますので、住民の皆様の盛り上がりを期待するところです。
〔具体的施策の展開〕	宇治茶の名声を保つためには、	山城地域振興計画において、宇

<p>「宇治茶の郷づくり」の推進</p>	<p>京都府内での生産の増加が求められるが、土地の取得や茶園の造成等解決を要する課題が多く、生産・流通の当事者だけでなく、行政の力にも期待するところである。</p>	<p>治茶の生産拡大の推進として、当面概ね60haを目標に茶園造成を目指すこととしており、府としても、市町村・関係団体と連携しながら、茶園造成の支援等を行ってまいります。</p>
	<p>緑茶発祥の地として、「宇治茶」のシンボルとなる多目的複合施設の実現を求め。また、宇治茶の生産拡大・生産基盤の確立のためには、農地の流動化による休耕水田の集約で新規集団茶園の造成を進めることや、茶園管理から製茶までの作業受委託専門の会社の設立を促すことが考えられる。</p>	<p>多目的複合施設については、関係市町村・関係団体の意向や主体的な取り組みを踏まえて、府としての対応を検討していきたいと考えます。また、宇治茶の生産基盤の拡大のため、関係市町村、団体と連携し茶園造成の支援等に取り組んでまいります。</p>
	<p>荒廃茶園の再生・活用も重要であり、所有者への助成、農地再生に係る事業費助成や公共残土の活用、荒廃茶園の所有者と規模拡大をめざす農家の情報交換の場や組織等の整備などを行うべきである。</p>	<p>新たな茶園だけでなく、既存茶園を守り、規模拡大を図る農家への流動化を図ることも重要でありますので、市町村・農業委員会と連携しながら、茶園情報を広域的・一元的に管理する仕組みを作り荒廃化を防止するとともに、現地の実情を十分踏まえ、弾力的な事業実施に努め、茶園造成が早期・安価にできるよう進めていきたいと考えています。</p>
	<p>「宇治茶の郷づくり」を推進する上では、学校教育の場で、遊休茶園の活用や出前茶香服の実施などを通じて、子供達へ宇治茶の良さについての理解を深めていくことが重要である。</p>	<p>小中学校においては、教科をはじめ、特別活動や総合的な学習の時間を利用した地域の歴史や文化、産業などに関する特色ある「ふるさと」学習が行われおり、「茶摘み体験」「製茶体験」「茶香服」など、お茶に関する学習を取り入れている学校もあります。 子供たちにお茶を飲む習慣や茶文化等を知ってもらうことは大切なことと考えていますので、今後は、実践交流会の開催など、各学校で行われている特色ある取組を山城地域に広めることを検討したいと考えています。</p>
<p>放置竹林の拡大防止と竹の利活用</p>	<p>放置竹林の活用策として、茶園として再生させることや、竹材を治水工事や建築素材として活用する方法を考えるべきである。</p>	<p>放置竹林の茶園化については、地形条件にもよりますが可能性としてはあると思われしますので、今後、検討していきたいと考えています。 また、治山事業で現地の竹を活用している事例もあり、技術的に可能な所では、竹の利用を検討していきます。</p>

<p>地産地消の推進</p>	<p>生産者と消費者の交流を進めることや、学校教育の場でも、地産地消の大切さを子供達に伝えていくべきである。また、農産物直売所等を住民にもっと知らせてほしい。</p>	<p>生産者と消費者の交流は山城地域振興計画での具体的施策としても位置づけており、食をテーマにした交流会の開催や情報提供を行ってまいります。</p> <p>また、各学校においては、近年、地元産農産物を利用した特色ある学校給食や家庭科での調理実習に取り組む学校も見られます。今後も、「いただきます。地元産」プラン推進事業などにより、地産・地消の視点を踏まえた食育の推進に努めてまいります。</p>
<p>自然災害からの安心・安全と うるおいのある環境空間の創出</p>	<p>地震等災害時の避難体制や連絡体制を整備するとともに、防災学習等が普段から必要である。</p>	<p>山城地域振興計画における具体的施策として、府・市町村の情報の共有に努めるとともに、防災ハザードマップの作成を支援するなど、市町村による警戒避難体制整備を支援します。</p>
<p>郷土を愛し、世界にはばたく 子どもの育成</p>	<p>各学校に、地域の歴史研究者、生産農家、茶業関係者、学研都市の研究機関研究員などを教員とする「山城ふるさと科」(仮称)を新設し、京都府南部地域の歴史や多様性を、子供たちに伝えるようにすべきである。</p>	<p>小中学校においては、教科をはじめ、特別活動や総合的な学習の時間を利用した地域の歴史や文化、産業などに関する特色ある「ふるさと」学習が行われており、お茶に関する学習をはじめ、田植えや稲刈り、古老柿づくり、しいたけ栽培などを行う学校や、宇治田楽や凵人舞など郷土芸能に取り組む学校も見られます。</p> <p>今後も、各学校で行われている特色ある取組を山城地域に広めることを検討したいと考えています。</p>